

製品名: ILK-1 (リン酸化 Ser343) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05780**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	ILK
別名	Integrin-linked protein kinase (EC 2.7.11.1) (59 kDa serine/threonine-protein kinase) (ILK-1) (ILK-2) (p59ILK)
遺伝子 ID	3611.0
SwissProt ID	Q13418
免疫原	ヒト ILK-1 由来の合成ペプチド (リン酸化 Ser343)

背景

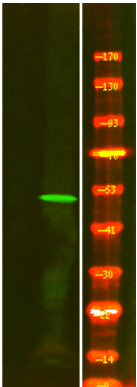
触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。ドメイン: PH 様ドメインはホスファチジルイノシトールリン酸の結合

に関与する。、酵素調節: PI3-K 依存的に、細胞フィブロネクチン相互作用とインスリンの両方によって、迅速かつ一過的に刺激される。これはおそらく、PtdIns(3,4,5)P3 が ILK の PH 様ドメインに結合することを介している。、機能: インテグリンを介したシグナル伝達を制御する受容体近位タンパク質キナーゼ。インサイドアウトインテグリンシグナル伝達のメディエーターとして機能する可能性がある。ILK-PINCH 複合体を構成する接着斑タンパク質。この複合体は、インテグリンおよび成長因子シグナル伝達経路の収束点の1つと考えられている。上皮細胞における細胞構造、インテグリン基質への接着、および足場依存性増殖の媒介に関与している可能性がある。インテグリンの $\beta 1$ サブユニットと $\beta 3$ サブユニットのセリンおよびスレオニン残基をリン酸化しますが、AKT1 および GSK3B もリン酸化します。、PTM: セリン残基が自己リン酸化されます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 5 つの ANK リピートを含みます。、サブユニット: インテグリンの $\beta 1$ サブユニットの細胞質ドメインと相互作用します。インテグリンの $\beta 2$ 、 $\beta 3$ 、および/または $\beta 5$ サブユニットと相互作用する可能性があります。LIMS1 および LIMS2 と(ANK リピートを介して)相互作用します。パルビンおよびおそらく TGF β 11 と相互作用します。、組織特異性: 心臓、次いで骨格筋、脾臓、腎臓で高発現しています。胎盤、肺、肝臓で弱く発現する。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



HEK-293 細胞 (1) と無血清処理細胞 (2) のウェスタンブロット解析。一次抗体は 1:1000 希釈。二次抗体は 1:10000 希釈。